

令和2年9月2日

学生の皆様

帝京科学大学

## 緊急学修アンケート結果概要報告について

本学では、令和2年7月28日～8月3日の間、学生の皆様の情報環境や学修状況、不安や困っていることなどを把握し、今後のオンライン授業改善等のための資料とすることを目的に緊急学修アンケートを実施しました。回答率約50%の2,422名の多くの方々から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。以下に授業に関するを中心概要を報告するとともに、今回のアンケート結果に関しての本学の現段階の基本的な考え方を整理しましたのでお知らせします。なお、集計結果については、CampusSquareの「掲示板」をご覧ください。

### 1 アンケート調査概要

- ① 「前期授業の課題」（単一回答）については、「受講する科目全てで提出することができた」57.9%、「受講する科目全てで、必要最低限は提出することができた」27.2%で、合わせて85.1%が肯定的な回答となっています。
- ② 「授業の受講に関する問題」（複数回答）については、「課題の量が多かった」58.8%で最も多く、「やり方が複雑で難しかった」35.9%、「動画があった方がよかったです」22%、「教員の操作や説明がうまくなかった」20.5%と続いています。一方、「特に問題はない」は25.4%となっています。「双方向（Zoomなど）授業方法」（複数回答）については、「時間が長いと疲れる」49.8%で最も多く、「うまく接続できないことがあった」44.2%と続いています。一方、「コミュニケーションができた良かった」30.6%、「授業内容がよくわかった」29.6%と肯定的な回答も一定数あります。「オンデマンド（動画視聴YouTubeなど）授業方法」（複数回答）については、「利用しやすい」51.7%、「授業内容がよくわかった」30.4%と肯定的な回答が多いものの、「双方向（Zoomなど）授業方法」と同様に、「時間が長いと疲れる」が30.7%となっています。
- ③ 「（対面授業と比べた）学修成果」（単一回答）については、「ある程度学び、身につけることができた」46.0%、「十分に学び、身につけることができた」7.1%と合わせて53.1%となっています。一方、「あまり学ぶことや身につけることが

できなかった」39.2%、「ほとんど学べず、身についたこともほとんどなかつた」7.8%で合わせて47%となっており、肯定的な回答、否定的な回答がほぼ半々となっています。

- ④ 「今後希望する相談、設備、スペースなど」（複数回答）については、「履修する科目に関する相談」69.4%と最も多く、続いて「学修の仕方など、学修相談」42.4%、「就職あるいは進路の相談」31.5%、「国家試験など資格取得に関する相談」30.2%、「個別の科目担当教員との学修相談」24.6%と続いています。大学に登校できないオンライン授業のため、履修相談や就職・進路・資格取得に関する希望が多くなっています。
- ⑤ 自由記述については、420件という多くの意見が寄せられました。授業方法・内容等に関すること、通信方法に関すること、対面授業への希望に関すること、登校や対面授業への不安に関すること、就職・進路・資格取得や課外活動に関すること、友達とのコミュニケーションに関すること、メンタル等心身に関すること、施設整備費等の学生納付金に関するなど様々な意見がありました。

## 2 アンケート結果に関する本学の現段階の基本的な考え方

- ① 本学においては、新型コロナウィルス感染症拡大の状況を踏まえ、学生の皆様の健康と安全、感染拡大防止のため、原則として7月まではオンラインで授業を実施しました。十分な準備期間もなく、大学の教職員も初めての経験で様々な課題がありました。学生の皆様も当初は、うまく接続できないことがあった、やり方が複雑で難しかった、課題が多かったなど、慣れない環境で大変なご苦労があったかと思います。このような中、前期は皆様のご理解とご協力で概ね順調にオンライン授業を進めることができました。後期については、今回のアンケート結果、感染状況等を踏まえ、オンライン授業と対面授業を併用するとの方針で、先般後期の時間割を発表したところです。今後、対面授業も実施され、課外活動も一定の感染対策を講じた上で可能となりますので、友達同士のコミュニケーションの機会も増えます。
- ② オンライン授業の課題については、「課題の量が多かった」が最も多く、後期の授業に向けての大きな課題です。また、オンライン授業の方法に関しては、オンデマンドの方法が満足度が高い傾向にあります。しかしながら、「オンデマンド」「双方向（Zoomなど）」とも、「時間が長いと疲れる」と回答する者が多く、後期において改善すべき課題であると考えています。また、学修成果については、肯定的な意見が半数に止まったことは課題であり、オンライン授業の質の向上に取り組んでいく必要があります。

現在、「遠隔授業運用部会」を設置し、今回の意見を共有し、モデル的な授業例を示した研修の実施や効果的なオンライン授業の進め方などのマニュアルを教員間

で共有するなど、オンライン授業の質の向上に向けた改善に取り組んでいます。

- ③ 今後希望する相談では、履修相談や就職・進路・資格取得に関する希望が目立ちました。また、自由記述の意見には、新型コロナウィルス感染拡大の影響で学生生活が一変し、オンライン授業になったことで、オンライン授業に関する不満の声、メンタル等心身に関して不調や不安の声、今後の進路・就職活動・資格取得への不安の声、対面授業を早く開始して欲しいという声、通学や対面授業への不安の声、登校機会の減少に伴い施設設備費等の学生納付金を減額して欲しいという声などが多く寄せられました。

本来のキャンパスライフとは大きく異なる事態で、様々なことに不安や悩み、戸惑いも多いことと思います。直ちに実現することが困難な課題、中期的な課題などもありますが、皆さんの切実な声は大学としても真摯に受け止めております。これらの内容は学内の教職員で共有し、対応を検討しておりますので、疑問点、不安、相談したいことなどあれば、まずは相談することが大事です。皆様が気軽に相談できるよう、現在の助言教員制度はじめ相談体制の改善・充実に取り組んでいくこととしています。

- ④ オンライン授業が実施され、大学内への入構が制限されたことから、「学費を安くして欲しい」、「施設設備費を返して欲しい」などの意見を多くいただきました。学生納付金の基本的な性格については、6月11日付けのホームページで示したとおりです。学生納付金は学位授与を見据え卒業までに必要な費用の総額を平準化して設定しており、各学年の学費は年数で等分したものであることから、新型コロナウィルス感染症対策によるオンラインの授業対応や授業開始時期の変更が生じた場合でも減額できる性質のものではございません。したがってオンライン授業実施等に伴う施設整備費や実験実習費等の一部返還や減免については、本学としましては、ご希望に添えることができないものと考えております。本学は、これまでにもオンライン授業の導入に伴う通信機器・通信料の負担軽減として修学支援金の支給、ノートパソコンのレンタル、オンライン授業に必要なソフトの経費、感染対策経費など様々な支出を行っているところです。どうかご理解いただきますようお願い申し上げます。後期においては、実験実習、演習、実技系科目は対面授業を予定しています。より充実した授業内容となるよう努めていく予定です。

なお、学生納付金を納付期限までに納入が困難な学生に対しては延納制度を設けておりますのでご相談ください。「帝京科学大学奨学金制度」（授業料の50%減免）は、ご家庭の家計が急変した場合などの支援制度です。今年度はこの制度を拡充していますので、お困りの方はご相談ください。